

第2回病院長・大学WG(R4.9.29)における主な意見

【能登北部の周産期医療について】

- ・若い女性が安心して住める街づくりが市町繁栄の基本。地元で安全なお産ができる体制(施設、医療従事者派遣)が重要。
- ・長期的には、能登北部では、分娩数の減少が予想されることも考慮し、施設の集約化を検討すべき。なお、ハイリスク妊産婦を受け入れる周産期母子センター(金沢・内灘)へのアクセスを勘案すると、その立地は穴水町が最も良い。
- ・能登北部に母子センター機能を持つ施設を設けることは理想的であるが、実現には、人員確保(産婦人科医、小児科医、助産師、麻酔科医のほか、内科医、外科医等)や施設・設備などの課題がある。能登北部2市2町は、人口や分娩数の将来予測も考慮し県の協力のもと、現状の施設・人員を活用した効率的な体制を考える必要がある。

【若手医師の育成について】

- ・症例の多い県立中央病院は、若手医師が研鑽を積む人材育成上の利点がある。各大学の若手医師の研修や交流の場として活用すると良いのではないか。
- ・更に能登の病院での研修が可能になることが望ましいが、指導医確保について検討する必要がある。

【助産師について】

- ・周産期医療における助産師の役割は重要であり、助産師の地域偏在を是正する取組推進が重要。
- ・石川県では、正常分娩の殆どが診療所、ハイリスク分娩が病院で行われている。
- ・病院勤務の助産師は、正常分娩の介助を十分に経験できない課題がある。
- ・病院の更なる理解と協力を得て、病院と診療所間の出向研修の更なる活用・充実が重要。

【その他】

- ・石川県の周産期医療機関は、1次・2次の役割分担が明確ではない。3次とそれ以外に明確な区分がなく、整理することが望ましい。
- ・搬送時の胎児監視モニタリングシステム等を導入し、有用性を検討していきたい。